

石川・漆町西遺跡

所在地 石川県小松市漆町・白江町
調査期間 一九八〇年（昭55）四月一〇日～二月二七日
発掘機関 小松市教育委員会

調査担当者 小村 茂・宮下幸夫・久生秀樹（社会教育課）

遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 古墳時代・平安時代中期～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

漆町西遺跡は、市街地の東方1km、標高約4mの低地に所在し、特別土地改良（カドミウム汚染田改良）事業の実施に先立つ試掘分

布調査で発見された集落遺跡である。

検出した遺構は、勾玉、管玉及び古式土師器を伴う溝があるが、中核をなす遺構は、須恵器を伴う二六棟の掘立柱建造物跡と用水路跡及びこれに付随した導水施設であろう。

導水施設は、用水路より木製管により引水し、長さ二・五m、径40cmの松の自然木を加工した桶を用いて導水するものであるが、揚水具は確認されなかつた。

中核をなす遺構に伴う遺物としては、須恵器、綠釉陶器、木製品及び石製品などがある。他に、一四世紀を中心とした中国製青磁、

白磁類が目立つた。須恵器にはかなりの墨書き器が認められた。石製品としては、輝石安山岩製巡方帶がある。木製品には、用水路跡及び井戸内から出土した箸状木製品、竹籠、下駄、曲物底板などがある。木札は、遺跡東方に位置する二×二間の掘立柱建造物跡（倉庫跡）付近より出土しているが、遺構との関連は不明である。
漆町西遺跡は、かなりの広がりをもつ集落遺跡であり、出土遺物の内容から、約一・五km離れた加賀国府推定地との関連性からも、より重要視しなければならない遺跡と考える。

8 木簡の釈文・内容



ヒノキ材で、下部の一部が欠損している。

9 関係文献

小松市教育委員会

『漆町西遺跡』

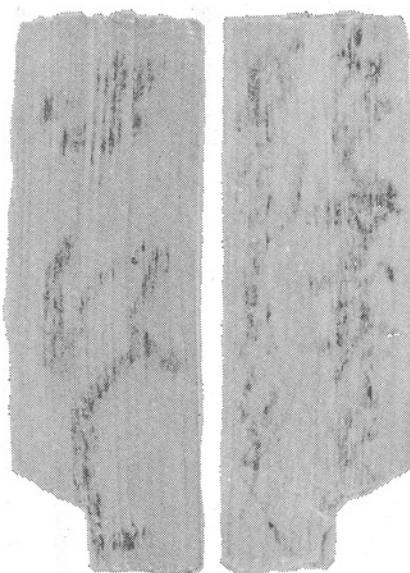
（未刊）

（小林 茂）



(小松)

1980年出土の木簡



漆町西遺跡出土の木札

石川・桜町遺跡

1

所在地 石川県鳳至郡穴水町字川島小字桜町

2

調査期間 一九七八年（昭53）二月～三月

3

発掘機関

穴水町教育委員会・穴水町埋蔵文化財調査委員会

4

調査担当者 四柳嘉章・辻本 馨

5

遺跡の種類

集落跡

6

遺跡の年代 平安時代末～室町時代

7

遺跡及び木簡出土遺構の概要

桜町遺跡は、能登半島の屈折点にあたる穴水盆地のやや奥部に位置し、盆地を貫流する小又川の右岸に立地している。標高約3m。

近年、市街地周辺の大規模な宅地化が計画され（穴水都市計画西川島地区区画整理事業）、一〇年計画で盆地全体の発掘調査（西川島遺跡群）を実施中である。当遺跡の第一次調査は、道路敷の6×30mを完掘し、一〇棟の掘立柱建物（一二末～五世紀）、井戸（二基）、土壙等を検出した。一号井戸（方形横棟支柱型）には、マナコとしての珠洲焼淨瓶（一二末～一三世紀初）が納置されており、二号井戸（方形隅柱横棟型、一三世紀中葉）には、組み合せ人形の頭部（両面に朱塗で唇を描く）が投げこまれていた。

木簡が検出された一号土壙は、楕円形（長径1・二五m）を呈し、

木簡研究創刊号で紹介した、静岡県藤枝市御子ヶ谷遺跡の発掘報告書が出版された。同書は駿河国志太郡衙跡と考えられる御子ヶ谷遺跡と秋合遺跡の発掘報告書で、本文二〇三頁・写真図版一六九頁の大部なもので、木簡の釦文はもちろん、墨書き土器等の検討、志太郡衙の比定、遺跡の編年及びその構造等、内容は詳細にわたっている。

藤枝市埋蔵文化財調査事務所編

『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書III』

一九八一年三月

頒価一万一千円・送料五〇〇円

申込先

同調査事務所

二四二六静岡県藤枝市新南新屋三〇一四